

九州運輸局メールマガジンをご愛読くださりありがとうございます。

九州運輸局メールマガジンは隔週の木曜日にお届けしています。

次回発行日は平成28年3月10日（木）です。

---

## ◆ 目次

### 1 現場レポート

- ・「地域公共交通活性化セミナー2016in福岡」を開催しました
- ・「国民生活の維持・発展を支える物流」をテーマに意見交換～第19回九州地方総合物流施策推進会議を開催しました～
- ・「九州運輸局バリアフリー部門関係表彰式」と「九州バリアフリー等連絡会議」を開催しました
- ・フェリー船内でWIB（Work Improvement on board）講習会を開催！～乗組員が自らの船内のリスクチェックを行いました～
- ・大学生に海事産業の重要さを紹介～初めての試み・大学生の海事施設見学会～
- ・帆船「海王丸」で見学会開催～鹿児島水産高校生が練習船で実習体験～

### 2 お知らせ

- ・自動車の手続きはお早めに！
- ・平成28年度「国土交通行政インターネットモニター」募集中～締め切りは3月7日（月）です～

### 3 九州運輸局ホームページアップ情報

- ・報道発表
- ・お知らせ
- ・更新情報

---

## 1 現場レポート

---

### ◆ 「地域公共交通活性化セミナー2016in福岡」を開催しました

九州運輸局では、平成28年2月17日（水）に福岡合同庁舎新館海技試験場（福岡市博多区）において、「地域公共交通活性化セミナー2016 in福岡」を開催しました。本年度2回目の開催となる本セミナーには、地方自治体や交通事業者をはじめ100名を超える関係者が参加し、大変な盛況となりました。

基調講演として、九州産交バス株式会社（熊本県熊本市）取締役の河合賢一氏より、「一事業者からの報告」と題し、現在取り組まれている分野から都市圏の路線再編の紹介と事業者目線での活性化再生法関係の計画について講演いただきました。

また、えちぜん鉄道株式会社（福井県福井市）専務取締役兼管理部長の伊東尋志氏より、「えちぜん鉄道の歩みと地域社会」と題し、鉄道事業を取り巻く環境の変化とこれまでの取組の紹介、そして地域社会の将来に向けて事業者が取り組むべき課題について提言いただきました。

後半には、国土交通本省の担当官より、改正地域公共交通活性化再生法による支援

制度について、現在注目を浴びている訪日外国人旅行者受入環境整備事業と地方創生推進交付金の説明も含めて、法制度と予算の観点から説明を行いました。また、九州地方整備局建政部より、交通と一体になったまちづくりに関する制度と予算について説明しました。

セミナーの参加者からは、「事業者として一つでも会社で活かされるような努力をしたい」、「より具体的な最新情報を聞くことができ大変よかった」という意見が上がっていました。

九州運輸局では、今後もセミナー等を開催し、地域公共交通の活性化に貢献できる人材育成や情報提供を行っていきます。

セミナーの様子は次のURLからご覧になれます。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_326\\_1.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_326_1.pdf)

(交通政策部 交通企画課)

---

◆「国民生活の維持・発展を支える物流」をテーマに意見交換

～第19回九州地方総合物流施策推進会議を開催しました～

2月12日(金)、九州運輸局では、九州経済産業局、九州地方整備局とともに「第19回九州地方総合物流施策推進会議」を開催しました。この推進会議は、「総合物流施策大綱(平成9年4月閣議決定)」の策定を受け、同大綱の課題に取り組む地方組織として平成9年8月に設置され、国の機関(10機関)、九州各県・政令市、各県警本部、経済団体、学識経験者により、物流の諸問題に関する各機関の先進的な取組・施策の紹介や意見交換を通じ問題意識の共有や施策の推進を図る目的で開催しています。

今回は、総合物流施策大綱(2013-2017)に基づく国の各機関の取組状況等の報告の他、「国民生活の維持・発展を支える物流」をテーマに、まず、宮崎県西米良村むら創生課 瀆砂課長により、「中山間地集落のひと・もの輸送システム構築事業～「カリコボーズのホイホイ便」プロジェクト～」と題して、自家用有償運送車両(村営バス)を活用し、物と人(貨客混載)を運ぶことにより輸送コストを削減、村営バスの維持及び買い物支援・見守りサービス等の向上を試みる持続可能な物流システムの構築に向けた取組の紹介をしていただきました。続いて、近年のEコマースの急速な発展に伴う宅配便等の再配達の問題とその対応策について、ネット通販事業者の立場から(株)楽天店舗開発部九州・中国エリア 千葉グループ サブマネージャーより「インターネット通販のポテンシャルと物流対策について」と題して、ネット通販の概要やEコマース拡大により今後取り組むべき課題などをわかりやすく紹介いただきました。

最後に、物流事業者の立場からヤマト運輸(株)九州支社ソリューション営業部 幡手マネージャーから「お客様ニーズに合わせた配達に向けての取組」と題して、お客様の好きな時間に好きな場所で荷物を受け取れる仕組み創りなどお客様のニーズを徹底的に汲み取ることで、再配達をなくすためのサービスを紹介いただき、最近の物流を取り巻く状況について官民関係者間で情報共有を図ることが出来ました。

九州運輸局は、今後とも関係機関と協働・連携し、さらなる物流施策の推進を図っていきます。

講習会の様子は次のURLからご覧になれます。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_326\\_2.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_326_2.pdf)

◆「九州運輸局交通バリアフリー部門関係表彰式」と「九州バリアフリー等連絡会議」を開催しました

九州運輸局では、交通バリアフリー部門における取組に顕著な功績があった「長崎自動車株式会社」と「株式会社福岡交通センター」を平成27年度の九州運輸局長表彰受賞者に決定し、平成28年2月23日(火)に表彰式を執り行いました。受賞理由は次のとおりです。

【長崎自動車株式会社】

高齢者、障がい者等の移動の利便性の向上を図るため、ノンステップバスの導入の他、バスターミナルの段差の解消、視覚障害者誘導用ブロックの整備、身体障害者対応型便所の設置等の移動円滑化を行うことにより交通バリアフリーの推進に貢献した。

【株式会社福岡交通センター】

高齢者、障がい者等の移動の利便性の向上を図るため、バスターミナルの段差の解消、視覚障害者誘導用ブロックの整備等の移動円滑化を行うことにより交通バリアフリーの推進に貢献した。

表彰式では、九州運輸局長から長崎自動車(株)の 嶋崎社長、(株)福岡交通センターの小金丸社長へ表彰状が授与され、その後、両社から取組内容の発表をいただき、更なる交通バリアフリー化の推進に向け、今後も取組を進めていく決意が述べられました。

表彰式終了後は会場を変え、引き続き「九州バリアフリー等連絡会議」を開催いたしました。この会議は、高齢者、障がい者をはじめとする全ての人々にとって、安全、快適に暮らしていける生活環境を実現するために、関係する有識者、高齢者・障がい者団体、施設設置管理者、行政機関等が一堂に会し、地域に密着した情報の共有をはじめとした意見交換等を行い、相互間の理解を深めることで、連携してバリアフリー化施策のスパイラルアップを目指すことを目的としています。

会議には、九州管内のバリアフリーリーダーをはじめ、高齢者・障がい者等の各団体、交通関係団体、交通事業者、自治体等から約60名が参加し、交通事業者から駅のエレベーター・多目的トイレの設置状況や、ノンステップバスの導入状況などの報告があり、障がい者団体からは取り組んでいる運動や、日常生活で気付いたこと等の報告がありました。その後の意見交換においても参加者より積極的な発言が行われ、とても有意義な会議となりました。

今後も九州運輸局では、このような場を通じて、九州地域での交通バリアフリー化のスパイラルアップを目指していきます。

表彰式及び会議の様子は、次のURLからご覧ください。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_326\\_3.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_326_3.pdf)

(交通政策部 消費者行政・情報課)

---

◆フェリー船内でWIB (Work Improvement on board) 講習会を開催！  
～乗組員が自らの船内のリスクチェックを行いました～

九州運輸局では、平成28年2月10日（水）九州郵船株式会社の協力を得て、博多港停泊中の「フェリーちくし」船内にて、福岡地区旅客船協会会員を中心とした46名の参加者による船内自主改善活動指導員養成講習会（W I B : Work Improvement on board）を開催しました。

この船内向け自主改善活動 W I Bの基本的な考え方は、自分の職場は自分自身が一番分かっているとの考えで、船員自らが船内のリスクチェックをして労働災害の未然防止を図ることを目的にしています。

講師である高崎経済大学の久宗教授より、はじめにこのW I Bの具体的な考え方、進め方の講義があり、その後の実習に移り、それぞれの船員が甲板部、機関部、事務部分かれて自らの職場である船内のリスクチェックを行いました。

実習終了後は、各部より改善点等の意見発表があり、講師の久宗教授からのアドバイスのもと情報を共有したところです。

参加者の皆さんは非常に関心も高く、熱心に実習等に取り組んでおり、この講習会が関係者の労働災害防止に繋がることを祈念して終了しました。このように船内にて講習会を実施するのは初めての試みでもあり、また運航スケジュールとの兼ね合いもあることから最後まで気が抜けませんでしたが、九州運輸局としては今後もこのような講習会を継続的に実施することとしています。

講習会の模様は次のURLからご覧になれます。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_326\\_4.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_326_4.pdf)

（海上安全環境部 船員労働環境課）

---

#### ◆大学生に海事産業の重要さを紹介

～ 初めての試み・大学生の海事施設見学会 ～

福岡運輸支局と若松海事事務所においては、海事産業の次世代を担う人材育成事業として青少年を対象に、「海の仕事」の存在を認識してもらうために様々なイベントを企画していますが、今回は、初めての試みとして大学生及び教員に海事産業の重要さを理解してもらい、リクルート活動の参考にして貰おうと阪九フェリー株式会社及び関門コンテナターミナル株式会社のご協力を得て、九州国際大学法学部の学生6名（3年生1名、2年生1名、1年生4名）及び同大学法学部教員4名を対象に海事施設見学会を実施しました。

最初に見学したのは、昨年1月就航の阪九フェリー最新鋭カーフェリー「いずみ（15, 897総トン）」で、参加者たちは客室の豪華さや展望室・露天風呂の設備に驚くとともに、船橋で職員からレーダーなどの航海器機や操縦方法、少人数の船員で大型フェリーが動いていること等の説明に興味を示していました。

下船後は、旧大連航路上屋にて支局職員から海事産業についての講話及び九州運輸局の概況説明を行い、その後、太刀浦に移動し、コンテナターミナル内をバスの中から見学しましたが、初めて見る巨大ガントリークレーンやストラドルキャリアの運転士の繊細な運転技術に驚き、「このような職業があることを初めて知った」と話していたのが印象的でした。

見学後のアンケートでは、参加者全員が「海事産業に関心を持った」、「海事産業は重要と思う」と回答し、注目する点では、学生が「海事産業の職場に就職したいか」の問いに、「条件によっては就職してもよい」との答えも含め全員が「就職してもよい」と回答しており、4名の教員全員も「今後、授業や指導で取り上げることが増えそうだ」と回答するなど、一定の成果があったと思われれます。

また、教員から「法学部から船社への就職が内定している者もいる。また、大学生でも進路が定まっていない学生も多い。これまで教員を含め海事産業界の知識が乏

しく、このような見学会は有意義と思う」などの声もあり、今後も大学生も含めた青少年や教員の海事施設見学会等を実施し、海事産業に対する意識向上・啓発に取り組み、一人でも多くの青少年に海事産業界に就職してもらいたいと考えています。

見学会の様子は次のURLからご覧になれます。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_326\\_5.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_326_5.pdf)

(福岡運輸支局)

---

#### ◆帆船「海王丸」で見学会開催

～鹿児島水産高校生が練習船で実習体験～

鹿児島運輸支局は、独立行政法人航海訓練所の練習船「海王丸」が鹿児島港に入港する機会を捉え、鹿児島県立鹿児島水産高校の生徒を対象とした見学会を実施しました。

内航海運業界が深刻な船員不足問題を抱える中、当支局では、若年層の就職志望者を増やすための支援を行っており、今回の見学会もそうした取組の一つとして、同高校と航海訓練所の協力のもと、生徒の実習体験を目的に実施したものです。

同高校には実習船「薩摩青雲丸」があり、「船」に関する基本的な知識は持っている生徒たちですが、海王丸の特徴などの説明を受けたあと、エンジンルームやブリッジ、甲板上のマストなどを見学すると、構造の違いに興味津々の様子で目を輝かせていました。

当日は地元テレビ放送局の取材もあり、ヤード（帆船の帆を掛ける水平方向の支柱）を動かす体験や、インタビューの様子などが放映されました。

今回の見学会で生徒が船員という職業に更に興味を持ち、立派な船員になって日本の海運業を支えてくれることを期待しています。

なお、参加した生徒からお礼の言葉をいただきましたので、その一部をご紹介します。

「乗組員の方々の職務内容や本校卒業の先輩方の活躍等についても話を聞くことができ、海・船について学び、船舶のエンジニアを志す私たちにとって、とても参考になりました。帆を広げて走る帆走の説明や初めて見る機関室の2基の大型ディーゼルエンジンがとても印象に残っています。

今日の船内見学は、進学・就職について本格的に考えていく私たち2年生にとって、意味のあるとても貴重な経験となりました。これからの学習にも大いに生かしていきたいと思います。」

見学会の様子は次のURLからご覧になれます。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_326\\_6.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_326_6.pdf)

(鹿児島運輸支局)

---

## 2 お知らせ

#### ◆自動車の手続きはお早めに！

自動車の手続きはお済みですか？

引っ越しをして住所が変わったり、所有者等の名義が変わったり、使用をやめたときには、自動車の登録等の手続きが必要です。

正しく登録等が行われていないと、リコールの案内（車の欠陥に関する重要な通知）

や税金などのお知らせが届かない、といった支障が生じるおそれがあります。

手続のお問い合わせは、下記お知らせページの各運輸支局又は検査登録事務所へ。  
[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001\\_022/2016-0225-kanri.htm](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2016-0225-kanri.htm)  
(軽自動車については、管轄の軽自動車検査協会へお問い合わせください。)

3月後半は、運輸支局等の窓口が大変混雑します。  
早めに手続を行いましょう。

(自動車技術安全部 管理課)

---

◆平成28年度「国土交通行政インターネットモニター」募集中  
～締め切りは3月7日(月)です～

国土交通省は、皆さまから広くご意見お聴きして、国土交通行政に反映させることを目的として『国土交通行政インターネットモニター』を募集しています。  
多くの皆様からのご応募をお待ちしています。

■募集者数

全国で1,000名程度

■募集期間

平成28年2月1日(月)～平成28年3月7日(月)

■その他

応募方法・応募資格・モニターのお仕事など詳細は、下記URL(平成28年度「国土交通行政インターネットモニター」募集要領)よりご確認ください。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo01\\_hh\\_000105.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo01_hh_000105.html)  
(総務部 広報対策官)

---

3 九州運輸局ホームページアップ情報

--- 報道発表 ---

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#HOUDOU>

--- お知らせ ---

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#OSIRASE>

--- 更新情報 ---

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#KOUSIN>

//////// 編集部より //////////////////////////////////////

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。  
編集部では、運輸と観光に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

////////////////////////////////////

---

■本メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/backnumber-top.htm](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/backnumber-top.htm)

■本メールマガジンの配信中止やメールアドレスの変更などはこちらから

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou\\_mail.html](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou_mail.html)

■九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）

mail: qst-mm-kyushu@ml.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

---